

平成 30 年度第 3 回庄原市小学校外国語パワーアップ研修会 兼 第 3 回庄原市外国語教育研修会

平成 31 年 1 月 29 日（火） 庄原市立庄原小学校

パワーアップリーダーの研究授業や授業実践を通して、新学習指導要領を踏まえた小学校外国語の指導方法等について理解を深めるとともに、外国語教育に係る指導力の向上を図ることを目的に研修会を行いました。

【研究授業】第 5 学年 We can! 1 Unit 9 「Who is your hero? あこがれの人」

授業者 庄原市立庄原小学校 教諭 奥 真理子(パワーアップリーダー), ALT Glendy Soriano

本時の目標：友達のヒーロー紹介文をイラストと組み合わせて読み、意味を理解しよう。

<指導のポイント>

☆Small Talk で、教師と児童、児童同士のやり取りを通して、本時のポイントとなる「good at～」や既習表現の定着を図る。

☆十分に音声で表現に慣れ親しんだところで、友達の書いたヒーロー紹介文を各グループに配付し、書かれている内容について読ませる。その際、理解の助けとなるようにイラストや絵カードを使用し、推測しながら読ませる。



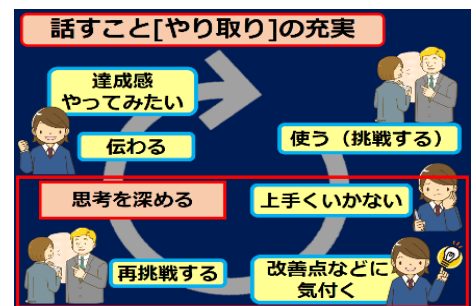
【実践報告】「小中連携による外国語活動・外国語科の授業づくり」

庄原市立庄原小学校 教諭 奥 真理子 (パワーアップリーダー)

庄原市立庄原中学校 教諭 重元 優樹 (アップグレードリーダー)

○小学校では、話すこと [やり取り] の力をつけるため、Small Talk の充実に入力しており、状況と表現を結び付けて理解すること、自分の気持ちや考えを伝え合うこと、既習表現を繰り返し活用することを意識した活動を行っている。

○中学校では、小学校の学びを踏まえた授業づくり (Eraser Game や Three Hint Quiz の活用など) を推進するとともに、話すこと [やり取り] の充実に向けて、挑戦、改善、再挑戦のサイクルを大切に授業づくりを行っている。



庄原中学校実践報告より

【講義・演習】「話すこと[やり取り]から読むこと、書くことにつなげる指導について」

庄原市教育委員会 指導主事 伊澤 知弥

話すこと [やり取り] から読むこと、書くことにつなげる指導のポイント

○英語を読むためには、文字の識別、音声化、意味が分かる段階がある。中学年の外国語活動で楽しみながら文字に慣れ親しむ活動を行い、児童の実態に応じて段階的な活動にしていく。

○中学年では文字の名称、高学年では文字の音を扱う。ジングル (リズムに乗せて発音する) など繰り返すことで定着させていく。

○小学校における「読むこと」の目標は、中学校のような英文読解のようなイメージではなく、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現について、イラストをヒントにしたり、文字の音の知識を手掛かりにしたりしながら、読むことに慣れ親しませていく。

【参加者の振り返りより】

- ・授業は既習事項を使ってのやり取りが多く、児童自身が英語を使えた実感を味わう場が仕組まれていた。
- ・読む活動の際にイラストが効果的であった。他の児童が書いたものを読むことで意欲も高まった。
- ・実践報告では丁寧な小中連携が行われておられ、その重要性がよく分かった。英語学習に対する意欲の高い児童・生徒の育成に向けて、同じ方向性をもった実践が行われており、大変参考になった。
- ・「読むこと」の目標や具体的な活動例が分かり、授業のイメージができた。